漢字はかなよりもやさしい

「かなは漢字よりもやさしい。」......千年来のこの考え方は誤っていました。しかし、そう考え誤るのは無理もないと思います。漢字は、

字数が多いから、覚えるのに大変である。

字画が複雑であるから、覚えにくい。

という、 むずかしく思われそうな要素をもっていて、そのため、平安 朝以来、かなは女手(やさしい)、漢字は男手(むずかしい)と言われて、 今に及んでいるのです。



平安朝以来かなはやさしい、漢字はむずかしいといわれて今日に 及んでいる ところが、漢字は"文字"であると同時に"語"でもあるのです。つまり、「山」「川」「花」「月」という漢字は、英語の「mountain, river, flower, moon」という"語"に当たっています。

英語の場合、これらの"語"を、千、二千と学習し、記憶しなければ、 本を読んでこれを理解することができません。

とすれば、漢字の千、二千を覚えることは、とりわけてむずかしい、と 考えるのが誤っていることになります。

漢字が"字"と呼ばれても、それは"かな"や"ローマ字"と同等に考えるべきものではなく、"字"の集合体である"語"であると考えますと、の"字画が複雑だ"という非難も当たらなくなります。

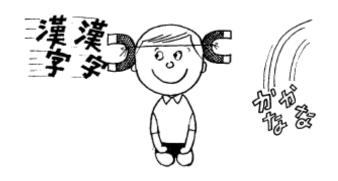
たとえば、「整」という漢字などは、一見、たいそう複雑な字形をしていますが、これは、英語の「to put(things)in order」に当たっています。「東」は things の意味、「攵」は put の意味、「正」は order の意味に当たっています。一つ一つ照合してみますと、漢字のほうがかえって簡単であることがわかります。

「整」は、英語の三つの単語に当たるものを一つにまとめたので、これを一字として見る時は、知らない者にだけ複雑に見えるのであって、

事実は、みごとに圧縮された文字だ、ということがわかります。

とはいえ、"論より証拠"です。いかに、私が、「漢字はむずかしくない。」という理論をみごとに展開してみたところで、幼児がこれを覚えてくれなかったら、何にもなりません。

まだ文字というものを全く知らない幼児に、漢字とかなを、同じ条件で提示してみます。すると、結果は、例外なく、幼児はかなよりも漢字のほうを先に覚えます。



幼児はかなより漢字のほうをはるかにはやく覚える

その漢字は、ただし、幼児に理解できる言葉を表わした漢字に限りま

した。たとえば、「範疇」などという漢字でも、ただ「はんちゅう」と読ませるようにするだけなら、できないことはありません。私は、自分の子供でこれを実験してみて、発音するだけならできることを確かめておりますが、こんな無意味な学習は一般にすべきことではありませんので、実験には幼児に理解できる言葉を表わした漢字と限ったわけです。

この実験は、すでに数千人の幼児に対して行なっていますが、その 結果は、明瞭に、「幼児は、かなよりも漢字のほうが覚えやすい。」という ことを証明しています。

それも、三歳くらいの幼児ですと、その差が比較にならぬほど大きくなります。漢字を覚えるのに費やした時間の、二十倍、三十倍の時間を費やしても、かなは覚えられません。両者にはそれだけの違いがあるのです。

それはなぜでしょうか。

それを考える前に、"記憶"ということはどのようにしてでき上がるものか、ということを考えてみたいと思います。